

臨床研修カリキュラム

養成コース [放射線診断・IVR 科]

全体目標:

医師としての基本的な態度・習慣を身につけるとともに、放射線診断に特化された以下のような研修を通して、画像診断学の基本原理とその臨床応用について修得する。

1. 1-2 ヶ月研修:単純写真・CT・MRI の読影を基本として、希望によりバリウム検査、超音波、核医学、IVRなどが加わる。
2. 3 ヶ月研修:単純写真・CT・MRI の読影を基本として、希望によりバリウム検査、超音波、核医学、IVRなどが加わる。
後半ではそれらをさらに brush up するとともに、希望検査を追加してその割合を増す。(再ローテーションも含む)

個別目標:

1. 単純写真	・単純X線写真の基本原理を説明できる。 ・胸部単純・腹部単純・骨単純写真の基本的な撮像法・体位・撮影方向を説明できる。 ・胸部単純・腹部単純・骨単純写真の正常像の概略を把握し、代表的な正常変異を知っている。 ・代表的な疾患における胸部単純・腹部単純・骨単純写真の異常像を指摘できる。 ・単純写真の読影における systematic reading の方法を身につけている。 ・単純写真の読影レポートの作成方法を理解している。
2. CT・MRI	・基本原理を説明できる(dual energy CT、MRI シーケンスを含む)。 ・適応、長所、限界などを知っている。 ・基本的な撮像法・プロトコルを説明できる。 ・経口造影剤・経静脈性造影剤の特徴を知り、その副作用について説明できる。また、造影検査を実施できる。 ・頭部・胸部・腹部の正常断層解剖を理解し、代表的な正常変異を知っている。 ・代表的な疾患における頭部・胸部・腹部の異常像を指摘できる。 ・読影における systematic reading の方法を身につけている。 ・読影レポートの作成方法を理解している。
3. 核医学	・核医学検査の内容を理解している。 ・投与のから撮像時間までの時間について知っている。 ・核医学で使う放射性同位元素とその半減期について知っている。
4. その他	〈バリウム検査:消化管造影〉、〈超音波検査〉、〈IVR〉については希望があれば研修可能。詳細は放射線診断・IVRグループのレジデントマニュアル参照のこと。

方略:

- ・ 予定表に記載された検査枠に入り、実際の検査を実施する。テキストやガイドラインを参照しながら画像診断報告書を作成し、上級医からその添削を受ける。
- ・ 単純写真については毎日割当症例が割り当てられるので、個々に読影して上級医に指導を受ける。
- ・ 夕方(勤務時間内)に行われる教育カンファレンスや他科との合同カンファレンス・講演会に出席する。希望により、科内カンファレンスで発表することも可能。

評価:

- ・ 日常の勤務態度、画像診断報告書の内容を踏まえ、EPOC II による評価を行う。
- ・ ローテーション中に養成コース長による面接評価を行う(適宜)。

診療科名	放射線診断・IVR
------	-----------

週間予定表

週間スケジュール

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
午前 (8 時 30 分 ～12 時 15 分)	CT	単純写真読影	MRI	RI 注射	MRI	休日	休日
午後 (13 時 15 分 ～17 時 15 分)	MRI	CT	CT	CT	単純写真読影		
その他	グランドカンファ	デイリーカンファ			デイリーカンファ		